

西南学院大学・ 図書館報

No. 32

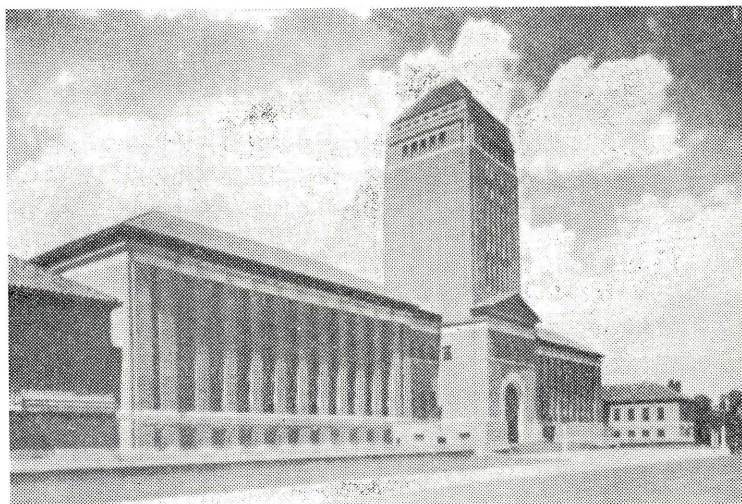
1966年10月15日発行

福岡市西新町

西南学院大学図書館

イギリスの 図書館

古沢嘉生



(Cambridge University Library)

London の Charing Cross Road は本屋街である。大きな Foyles を始め二三軒の古本屋を訪ねる事は私の楽しみの一つであった。都会でも小さな町でも旅先で時間の許す限り古本屋を探してかなりの掘出し物を得た。古本屋が多い事と、汽車や地下鉄等の乗物で本を読んで居る人を多く見掛ける事が、我々日本人学徒をして英国乃至は英国人に親近感を覚えしめる理由の一つではなからうかと思つた事である。在英中お世話になった所は、英国文化振興会、王立教会音楽学校、大英博物館、それに音楽史と音楽学の講義・演習に通つた London 大学と Cambridge 大学、以上五つの図書室乃至は図書館である。Cambridge の大学中央図書館は British Museum と Oxford 大学の Bodleian 図書館と共に、英国内で出版される全部の書籍を収容している由で、さすがに立派なものであった。利用規定等もあるが、まだ船の荷物が着いておらず、又、自分に必要な場所以外はそれ程見て歩いてもいけないので、多くを語る事は出来ない。毎木曜日写本や学位論文等特殊な文

献が保存してある読書室を利用したが、アカデミック・ガウンを着た若い学生達に混じって白い帽子の修道女や、部厚い本を読んでいる見すばらしい身装の老女、大きな虫眼鏡で写本を見ていた老人等は印象的であつた。各学寮からこの大学中央図書館迄はかなりの距離があり、学生達は古ぼけた自転車で行って来る。春ともなれば、クロカスや水仙等が萌出で、咲き乱れ、Cam 川には水鳥が遊び、学生達は川に船を浮べる。誠に麗しい詩そのものである。翻つてわが西南は、試験中の静けさと図書館の繁昌振り——大学ならば年中こうあるべきではなからうか。“What are you reading?” これは一つの英国的表現で、「御専攻は何ですか」と云う程の意味であろう。時々私も尋ねられた。どうも矢張り、勉強するとは読む事が中心のようである。

筆者は神学部助教授・基督教音楽専攻。
40年9月から41年9月まで英国政府給
費留学生としてロンドン、ケンブリッ
ジ各大学に留学。

複写の話

事務の85%は複写だといわれているから、これを機械化し事務の合理化を図ることは誠に重要である。最近の異常な機械の発達に電子計算機と並んで複写機が挙げられるのも、あながち不思議なことではない。

図書館業務も目録カードの複製をはじめ、文献複写サービスなど複写についやされる事務は相当にある。ただ図書館の場合、単に事務能率化の点だけではなく、複写コピーの保存性や仕上り効果（再現性）が特に大切であることを忘れてはならない。例えば目録カードの複写にしても、4～5年で色が褪せるようでは全く使いものにならないのである。

ところで、図書館の複写には、事務用複写のほかに、文献複写や学術雑誌目次複写などのいわゆる複写サービスがある。これは教職員や学生の研

究・学習に必要な文献を複写するもので、いわば図書館奉仕の一端を受持っているといえよう。それは事務簡素化のためのものではなく、むしろ利用者の便宜のためのものであり、これによって利用者は、必要な文献を一々筆写する手間が省け、学習や研究に資するところは極めて大きい。時に学生の中に心得違いの者がいて、図書の一部を切取って行ったりするが、僅かの実費を払えば実物と全く同じものを入手できるのであるから、他の多くの利用者に迷惑を及ぼすような不正行為は是非やめてもらいたいものである。複写サービスはこのような切取り行為の防止の一翼も担っているのである。この複写サービスではどちらかといえば経済性とスピードが要求されることが多い。従って複写の必要性と目的に応じた複写機械を選ぶ必要があるが、最近では経済性、スピード、保存性などを兼ね備えた複写機が登場してきた。複写の活躍する領域は益々広がってゆきそうである。

「紙魚。シミ目シミ科に属する下等なこん虫。体長8ミリ～10ミリで、全体銀白色の鱗片におおわれている。変態せず、成虫も幼虫も体長以外にあまり変わりがなく、

成虫になってもまったくはねがない。家屋内の暗所を好み、和紙、のりのついた紙類、書籍、人絹などを食害する。」と国民百科事典

にある。ところで近頃あまりしみを書籍の中に見なくなった。以前は本を開けば、必ず一つや二つは発見出来たものである。D・D・Tのような殺虫剤の発見のため、一族の繁栄を取り上げられ、みるかげもなくなった。しみ族にとってはさぞ残念なことであろう。青酸ガス・クロルピクリン・フォルマリンのくん蒸・BHCなどで手をかえ品をかえて攻撃されては、生活の場を脱出せざるを得ない。

以前本にしがみついて勉強する人をしみとあだなをつけたものだが、近頃そのようなしみの人物が少なくなってしまった。文明、文化は間

接的だが、遠い将来に効果を発揮する読書の努力をしなくてもよいような方向に作用している。だが果してそうだろうか。現代文明の目的に短

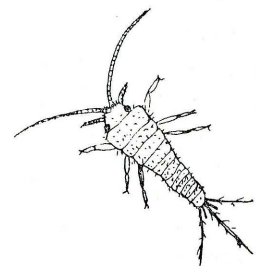
随想

しみのなげき

中村 弘

絡する傾向からすれば、読書は迂遠な方法かも知れないが、しみが一所懸命に紙を食うように、学究者に静かな所で本の中にある他人の言を食べ消化する要が今日ほど必要であろう。マスコミは自ら労せずともわれわれに多くの知識を与えてくれるが、今こそ自ら労して知識の吸収と考えることが必要であるまいか。少くともわれわれの中にそのようなしみが居てもよいと思う。読書は人間を謙虚にし、はね上った独善主義者を排し、生きた知恵を持った人を育てる。

(文学部長)



▶ ジュール・ロワ著「中国で経験したこと」

(篠田浩一郎他訳、至誠堂)

— 大崎正治 —

試験休みの後、しばらくがまんしていた洋画も見終ると、次に一冊の本にとりかかる。あのフレッシュな感覚は、研究生活に入ってから私にとって縁遠くなった。でもあの感覚を改めて思い出させてくれたのが、一冊今秋にあった。それがジュール・ロワの中国旅行記である。

ロワは「アルジェリア戦争」「ディエンビエンフー陥落」などで、フランス政府の植民地主義に反対してきた記録文学者であった。1964年秋、かれは中国革命の歴史を書き、記録映画をとろうと、勇躍して中国を訪問する。ところがロワの一行に接した中国の役人たちは、真理の追求のため自由に見聞したいという文学者の希望に反して、公式の教義を押しつけるだけだった。この旅行で、ロワはあまりにもひどい毛主席礼賛と儀式ばった接待をはじめとして、いわば中国の「官僚主義」のにおいを、同情と幻滅とをまぜながら、かぎとった。

中国の孤立主義と国内の激動について騒がれているが、あれやこれやの教義にとらわれずに自由に社会的実験を見守ろうとする点で、ロワはアンドレ・ジイドの「ソヴィエト紀行(正・続)」に比べるとであろう。またロワの旅行記とボーヴォワールの「中国の発見」とを読み比べることも大層興味深いにちがいない。(経済学部講師)

▶ S・I・ハヤカワ著「思考と行動における言語」

(岩波現代叢書)

— 村上隆太 —

かたい表題に似ぬ面白い本である。言語の機能と我々の思考と言語の関係を日常生活から豊富な例をひいて分析、解説している。例えば、「おまえは馬鹿だ!」ということばは、事実をのべようとするものではなくて、話者が怒っていることを

示すだけだ」というように、我々がことばの役割を知っていれば、ことばに振り廻されることもないことなども教えてくれる。「自由」や「民主主義」について討論することは、「リンカーン」や「佐藤首相」のことを話すのとはことばの抽象化のレベルがちがうこと、又、何故「猫」を「猫」と呼ばねばならないかに関してことばの命名(指示)行為的面など、我々が知っておいてよいことをわかりやすく説明してくれている。

著者は、いわゆる一般意味論を専門とする言語学者であるが、まだ、種々の学問的未解決の問題を抱えている意味論の分野に、一般の学生諸君がどこから入ったらよいかを、暗に示してくれる面白く、かつまじめな本である。一読をおすすめしたい。

(文学部講師)

▶ (1)並木俊守著 「粉飾決算」

(実業之日本社 ¥330)

(2)三代川正一著「会社決算のからくり」(税務経理協会 ¥250)

— 井上康男 —

秋の読書週間において学生諸君に推薦したい本としてこの二冊をあげたいと思う。

この二冊はその内容が興味本位で易しく書いてあり、簿記原理の知識さえ

あれば読みこなすことができるから、簿記原理Iを終了した2年生以上の諸君が読むと、復習にもなり、また簿記の仕組をもう一度深く反省させてくれる好著である。

前者の内容は第一篇粉飾決算のからくり、第二篇粉飾決算はなぜできるか、第三篇粉飾決算の末路、付録粉飾決算関係の法令集から成っている。

後者は第一章粉飾決算、第二章粉飾決算のみつけ方、第三章粉飾決算の責任という内容である。

二冊の中、どちらかというと前者の方を特に推薦する。

(商学部教授)

私の推薦図書

読書の秋に是非この一冊を

■ ニュース

＜ 図書館委員会 ＞

41. 5. 4 図書費配分について
 41. 7. 8 ロッカー増設の件、学生の要望事項について
 41. 7. 20 図書・雑誌の一元化（学研との合同委員会）
 41. 8. 20 同上

＜ 図書館協議会 ＞ ＜ 研修 ＞

41. 5. 25～27 私立大学図書館協会総会（於熊本商大）事業計画案、研究助成規程案など審議。坂本館長出席。
 41. 6. 2～3 九州地区大学図書館協議会（於八幡大学）大学図書館の改善、図書館員の養成について協議研究。坂口、藤田出席。
 41. 7. 11～15 図書館研究集会（於私学会館）山下司書長出席。
 レファレンス・サービスについて研究。

＜ 視聴覚教育設備操作説明会 ＞

41. 7. 6 図書館に備えつけられている視聴覚教育設備は、本学の視聴覚教育の目的のために教職員・学生団体から広く利用されている。そのうち16ミリトーカー映写機など若干の機材は、取扱い上注意を要するので、操作の説明会を開いたが、教職員や学生団体代表者が多数参加し、視聴覚機材の技師を囲んで熱心な操作実習が行われた。

＜ 人事異動 ＞

41. 10. 1付 松田敬一郎司書学生部へ配置換。
 41. 10. 17付 河内順子氏任用。

告 知 板

- 卒論特別貸出実施中 4年次の学生は、卒業論文作成のための特別貸出をすることができます。普通の貸出のはかに3冊1カ月間です。ゼミの指導教授の証明が必要です。係まで。
 ○ ロッカーの利用について 夏休中にロッカーが増設され、合計 180人分のロッカー設備が出来ました。これで平常開館時の携帯品は全てロッカーに預けて頂くわけになります。女子学生のハンドバッグも一定の大きさ（A5版大）以上のは全てロッカーに入れてください。
 ○ 分類目録の編成 本館の分類目録は、便宜上、書架目録の形式を採用していましたが、利用が不便だとの声がありますので、現在完全な分類順に編成を改めています。不便をおかけしますが、暫くお待ちください。

■ 国立学校図書専門職員採用試験のこと

さる8月1日に人事院から募集が行われた国立学校図書専門職員というのは、国立大学などの図書館や図書室で専門的な職務に従事する職員のことと、上級（甲・乙）、中級と分れており、上級（甲）に合格すれば国家公務員上級職の合格と同じです。

試験内容は、教養試験（択一式）と専門試験（図書館学について択一式と記述式）があります。詳細は就職課または図書館まで。

■ 図書寄贈者

- 古賀武夫教授 国際労働事務局（編）国際労働経済統計年鑑 他多数
 ○井上 忠教授 熊本県（編）熊本県史料第三近世編 他3冊
 ○山村延昭助教授 E. パウア著 山村延昭（訳）イギリス中世史における羊毛貿易
 ○遠山馨助教授 矢口孝次郎（編）経済史概説

■ 舟橋文庫の購入

以前、九大の民法担当の教授であられた舟橋諄一先生の蔵書約 2,400冊が購入され、舟橋文庫として本館に備えつけられることとなった。法学部設置に際し、本館の法学関係図書がこれで一段と充実されるわけである。

■ 奉仕係より

- 閲覧済みの図書は机の上に放置せず、必ず出入口の近くの返却棚の上に置いて出るようにしましょう。また自分で書架の中に戻さないでください。
 ○新聞の必要記事を破り取ってゆく人がいて大変迷惑します。お互いに注意してください。
 ○購入してもらいたい本があったら、どしどし購入希望を出してください。これまで希望のあった本の大部分は購入されています。用紙は受付横のカウンターの上です。

■ あとがき

欧米の図書館の行き届いた設備と親切な応答ぶりが、よく我国の図書館の重々しい空気と対比させられます。確かに利用本位という点では、我国の図書館はまだ遅れているようです。しかし乍ら、その面での改善と前進を図るためには、機能的な設備と、有能な職員の存在とが不可欠の条件であると思います。

新図書館の建設を間近に控えて、レファレンス・ルーム設備などすぐれたサービスの提供できる図書館の建設が念願されとともに、我々職員の質の向上を一層図ってゆかねばならぬことを痛感させられています。（Y）